

イメージング技術で生活シーンにおける最適な画像空間の提供を目指す

日本画像学会のご案内

— 維持会員入会のお誘い —

法人・団体でのご入会(維持会員)
特典(1口あたり):

学会誌年6回×2冊ご進呈
学会イベント毎に2名を会員価格でご優待
学会頒布品(チャート, 書籍等)を会員価格
でご提供

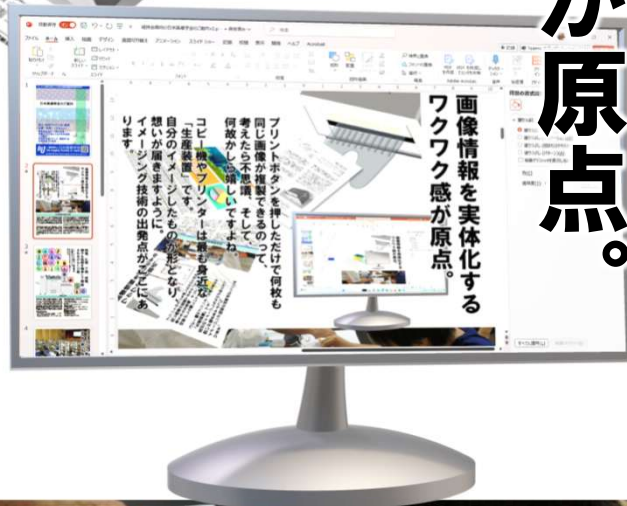
isj 一般社団法人 日本画像学会
The Imaging Society of Japan



ホームページ: <https://www.imaging-society-japan.org/isj.html>



画像情報を実体化する ワクワク感が原点。



プリントボタンを押しただけで何枚も
同じ画像が複製できるのって、
考えたら不思議、そして・・・
ワクワク
何故かしら嬉しいですよ。
コピー機やプリンターは最も身近な
「生産装置」です。
自分のイメージしたものが形となり、
思いが届きますように。
イメージング技術の出発点がここにあ
ります。



日本画像学会の沿革

1938年、米国でC. Carlsonによって電子写真法による最初の画像形成が行われ、1950年にXerox社から最初の商品が発表されました。文書の複写という労働から人類を解放するこの画期的な発明に魅了された日本の研究者、技術者が集まり、1958年に「電子写真学会」として本学会が発足し、その後の日本における複写機産業発展の礎となりました。

1980年代には、コンピューターの普及に伴い、デジタル化された画像情報を出力するため、電子写真法以外のプリンティング技術、デジタル画像処理技術、紙媒体以外の画像表示デバイスなどの新たな研究対象を取り込んできました。1998年に創立40周年を迎えるにあたり、学会名を「日本画像学会」とし、エレクトロニックイメージングも含むデジタル画像技術をカバーするように発展拡大いたしました。

2010年に法人設立登記を行い「一般社団法人日本画像学会」として新たに出発しました。2014年、本学会をはじめとする画像関連諸分野の学協会が集う「画像関連学会連合会」が設立され、連合会の協同事業として、国際会議 ICAI2015 (The 1st International Conference on Advanced Imaging 2015) を2015年6月に開催し、画像諸分野に関連する国内外の代表としての活動も続けています。

コンピューターの進化がさらに進み、AIが人間の知覚レベルを超える情報量のデジタル画像データが扱えるようになった今日、画像技術はさらに高度化する一方、生活シーンで必要とされる画像情報のあり方も変化しています。本学会では2012年に学会としての長期ビジョンVision55を策定し、2018年にVision 2030として改訂、新たな挑戦を模索しています。

イメージングで新たな価値を
生み出し続ける底力

研究討論会 (Imaging Conference JAPAN) が
あなたをイメージング技術の最先端にご案内
します。

技術講習会は、イメージング技術の基礎の習
得と応用力の養成をサポートします。

技術研究会では、専門領域での深い理解と新
たな気づきを探索しましょう。

2018年度年次大会Imaging Conference
JAPAN 2018 (at 千葉大学)

2022年度シミュレーション技術講習会
(at ユニコムプラザさがみはら)

活動内容

主な活動内容

【研究討論会などの各種イベント開催】

日本画像学会では、会員の日頃の研究成果の報告や、発表者と参加者間での討論や交流を行う場「研究討論会」を春期（6月・東京）、秋期（11月・関西地区）で開催しています。また、特定のテーマをとりあげた「シンポジウム」、若手研究者、技術者のイメージング技術の基礎の習得のための「技術講習会」、技術委員各部会が企画した「技術研究会」等のイベントを開催し、現行技術の進歩とその未来に向けた技術とイノベーションを語り合います。

【日本画像学会誌の刊行】

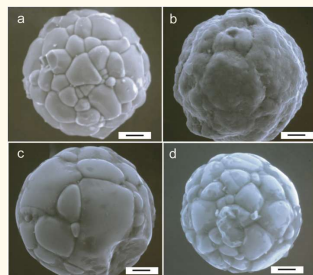
画像分野ならびに画像関連分野における画像材料、画像プロセス、画像処理などに関する理論的ならびに実験的な研究報告を対象とした「日本画像学会誌」を年に6回（隔月）刊行しております。

【テストチャート、標準現像剤、標準キャリア等の頒布】

日本画像学会技術委員会では、専門的な立場から研究された「高精度なテストチャート」、測定装置の検定、製造時の品質管理、商取引における共通データ作成などに広く活用できる「標準現像剤」および「標準キャリア」を頒布しております。



デジタルテストチャートNo.7



標準キャリア



第5回複写機遺産認定式 (2024)



2024年度研究奨励賞表彰式 (2025)

より速く、より美しく、
たゆまぬ進化を支え続ける

技術賞



技術賞は、本学会の対象とする領域に関する産業界において、独創性に富み、かつ優れた実用性が実証された技術の開発者に贈られます。対象とする技術成果は、応募申請時において技術成果公表以後、原則として1年以上5年未満経過したものとします。技術賞候補者名簿は、『選奨委員会からのお知らせ』でご案内しておりますので、ご参照ください。

2021年度 (第36回)

京セラドキュメントソリューションズ株式会社
『高速枚葉型複写機 T-SKALFA Pro 15000cの開発』

受賞理由：インクジェットヘッド「TASKalfa Pro 15000c」は、インクジェットヘッドの構造、水性顔料インク、高速印刷を実現する新規技術により、A4毎分150枚、110mm幅の紙に、高解像度の文字を印刷できる。新規技術により、低い環境負荷、印刷速度の向上、コスト削減が期待できる。



小塚 彰典 (おつか てるのり)



染手 隆志 (そめて たかし)

コニカミノルタ株式会社
『ハイボリュームカラー印刷システム C14000 システム』

受賞理由：乾式カラー複写機「C14000」は、高解像度のカラー印刷を実現する。また、高品質の印刷を実現するために、独自の技術により、高品質の印刷を実現している。また、高品質の印刷を実現するために、独自の技術により、高品質の印刷を実現している。



伊藤 孝志 (いとう たかし)



野村 庄一 (のむら しょういち)

論文賞



論文賞は、本学会の対象とする領域において、学問および技術に貢献する優秀な論文が発表された論文者に贈られます。

2023年度 (第38回)

『カーボンナノチューブを用いたフレキシブル電極作製とその応用』

日本画像学会誌, 62(3), pp. 200-207 (2023)

受賞理由：CNTの透明電極膜の作成における大きな課題である分散性や室温での印刷性、コスト削減が期待できる。生産性の面で大きな進展があったと評価できる。今後が期待できる。

2022年度 (第37回)

『ゼータ電位分布測定による顔料分散体の吐出安定性の予測』

日本画像学会誌, 61(3), pp. 200-208 (2022)

福田 輝幸 (ふくだ てるゆき)、声沢 健 (あしざわ たけし)、田中 聡 (たなか ともと)、花王株式会社

受賞理由：サーマルヘッドにおけるインク吐出の予測評価方法を計算機を用いて、高精度に予測することが非常に有用である。論文の論理構成が明確で、考察もしっかりしており、論文の質が非常に高く、インクジェットヘッドの吐出耐久性の評価指標として有効である。論文の質が非常に高く、インクジェットヘッドの吐出耐久性の評価指標として有効である。論文の質が非常に高く、インクジェットヘッドの吐出耐久性の評価指標として有効である。



福田 輝幸 声沢 健 田中 聡 Iain BLAKE

技術と人を育てる選奨制度が、日本のイメージング技術を磨き、未来を創造します。



選奨制度・顕彰活動

選奨制度

本学会の対象とする領域における学術または関連技術の発展に関し、業績ある方を表彰または奨励するための選奨事業を行っています。

学会賞

特に独創性に富む創案、技術開発を行った方に贈られます

功労賞

学会の運営に功労のあった方に贈られます

論文賞

日本画像学会誌に発表された優秀な論文著者に贈られます

研究奨励賞

若手研究者の奨励のため、年次大会で優秀な研究発表講演を行った登壇者から選出されます

技術賞

独創性に富み優れた実用性が実証された技術の開発者に贈

られます

技術研究賞

長年にわたって優れた技術成果をあげた方に贈られます

会長特賞

会長より本学会に貢献・功労があった方に贈られます。

フェロー

高い業績と専門分野への貢献が認められた方にフェローの称号が授与されます。

『複写機遺産』顕彰事業

日本画像学会では、日本における複写機産業の原動力となった初期の複写機の技術的、社会的功績を顕彰し、現存する歴史的複写機に搭載された技術の記憶を長く記憶にとどめ、後世に伝えるために、「複写機遺産」を認定する事業を、2018年度より行っています。2023年までに14件15機種が認定されています。

視覚・感性からアートにも繋がるイメージングの世界へ

イメージ情報を物質に置き換えていく行程は、アートそのもの。溢れる感性がイメージング技術を、加飾プリント、3D・4D造形、プリンティングエレクトロニクス、イメージングデバイスの新たな扉を開きます。

組織と運営

組織と運営

会員より選出された理事により構成される理事会を中心として、各種委員会を設置し組織的に運営を行なっています。会長、副会長は理事会の決議により理事の中から選出され、学会を代表します。



藤井会長（慶応大）



前田副会長（東海大）



木崎副会長（三菱ケミカル）

総会

会員の過半数の出席により成立する決議機関で、年1回開

催されます。

評議員会

各維持会員団体の代表者1名を評議員に委嘱し、学会の重要事項について会長の諮問に応じます。

理事会

総会で選出された理事、監事により構成され、学会運営の職務を執行します。

各種委員会

委員会には以下のものがあります。

- ・技術委員会
- ・編集委員会
- ・コンファレンス委員会
- ・事業委員会
- ・選奨委員会
- ・運営委員会
- ・財務委員会
- ・国際交流委員会
- ・広報委員会
- ・関西委員会

技術委員会の下部組織として、技術分野ごとの各種技術部会が構成されています。

人類・生物・地球環境との 融和と共存をめざして

イメージング機器がそのシステムの中で持続的に稼働し続ける、その仕組みを構築した私たちがだからこそ、製品の生産も、資源の調達も、エネルギーも、循環するサイクルの中で持続的に動かしているはず。技術が成熟期に達しつつある私たちが、まだこれからやり続けなければならないことです。

ご入会のお勧め

プリンティング関係の業務に携わる方はもちろん、その周辺を含めて広い分野の研究者、技術者、経営者の皆様にご入会をお勧めいたします。

■ 維持会員制度と入会の方法

維持会員は、法人、団体が学会をサポートして頂く制度で、口数制になっております。維持会員になって頂くと、次の特典があります。

1. 学会誌を1口当り2冊、発行日に送付いたします。また年次大会、研究会等のご案内をいたします。
2. 年次大会、シンポジウム、講習会、研究会等が1口当り2人まで会員価格で参加できます。
3. テストチャート、標準現像剤、バックナンバー等の頒布品が会員価格になります。
4. 評議員として評議員会に出席し、学会に意見を述べることが出来ます。

維持会員入会希望の方は、維持会員入会希望の方は日本画

像学会事務局までメール、FAX、あるいは電話にてご連絡ください。入会申込書をお送りします。理事会で承認後、会員となります。

■ 個人会員になるには

個人会員になりますと、研究成果の発表の場として、年次大会（研究討論会）への登壇、学会誌への論文投稿ができ、優れた業績は論文賞、研究奨励賞などの表彰が受けられます。また、個人会員を優先した催しに割引料金で参加できます。個人での入会をご希望の方は、学会ホームページから「お知らせ」「入会案内」にアクセスし、「入会申込書」に必要事項を入力し、事務局宛てにメールで送信してください。



日本画像学会事務局

〒164-8678

東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大学内

Tel : 03-3373-9576

(受付時間 平日10:00~16:00)

Fax : 03-3372-4414

e-mail : isj-information@isj-imaging.org

事務局長： 中山 信行

事務局次長： 竹内 達夫

事務局員： 西原 容子

交通

地下鉄丸ノ内線・都営大江戸線 中野坂上駅より
徒歩10分

参照：東京工芸大学（中野キャンパスの案内）

<https://www.t-kougei.ac.jp/access/#nakano>

